

額が2億円を突破



市場の評価も高い日南トマト

日南トマトの販売額が、初めて2億円を突破しました。平成2年に販売額1億円を突破、それから、右肩上がりに販売額は伸び、平成11年には1億9千万円を記録、2億円の大台にあと一歩と迫りましたが、以降は、販売額の減少が続いていました。

こうした中、町では、平成21年に農林業研修生制度を創設し、農業後継者の育成に着手、全国各地から転入した若い担い手の増加もあり、平成26年に1億円まで下がっていた販売額も、翌年からは伸び続け、このたびの快挙達成となりました。

全国的な品薄に対応

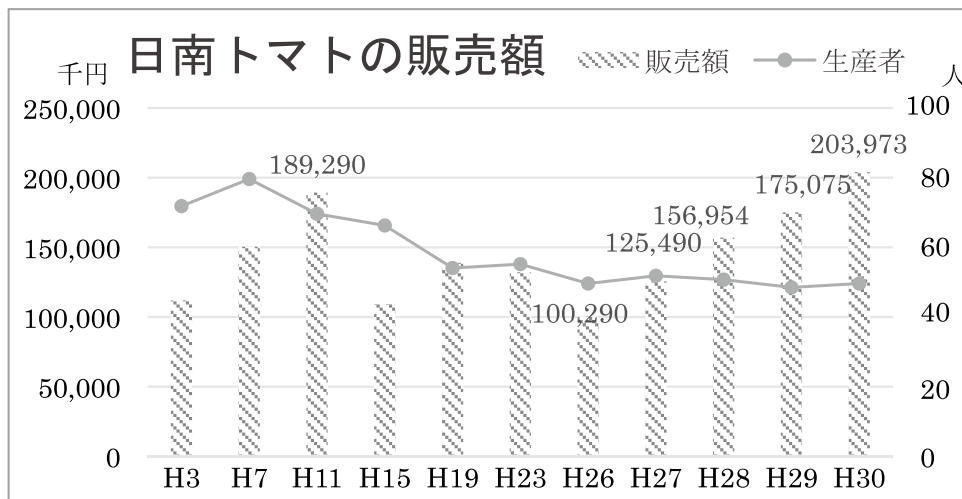
鳥取県全体の2〜3割の出荷量を占める日南トマトは、寒暖差の大きい環境がもたらす高い糖度と、トマトの味に欠かせない酸味とのバランスが非常にいいことで、市場より高い評価を得ています。本年は、県内はもちろんのこと、岡山、広島方面を中心に452トンを出荷、対前年度比1.8%減となりましたが、7月豪雨などの影響で全国的な品薄が続く中、前年より2割ほど高い1㍲430円平均での市場価格となったことが、販売額の押し上げに繋がりました。

後継者の育成

日南トマト生産部加入の生産者のピークは、平成7年の78人で、以降、減少傾向にあります。当時の住民基本台帳の人口は、約7600人でしたので、100人に1人が、トマトを生産していたことになりました。平成30年度のトマト生産者は52人と生産者数は減っていますが、人口割合では、大きな変動は見られません。ピーマン、白ネギ、ブロッコリーなどの販売額が減少している中で、トマトの販売額がこのように上がっているのは、平成21年からスタートした農林業研修生制度による就農希望者の受け入れも要因のひとつとなっています。

平成30年度までに採用した農業研修生は33人で、これまでに16人が町内で就農、内13人がトマト生産に励んでいます。4月には、新たに1名のトマト生産者が誕生しました。

す。また、3月には、印賀地内に研修生用のトマトハウスが完成しますので、更なる研修の充実を図っていきます。



連綿と受け継がれてきたもの

町のトマト生産は、昭和46年、露地栽培による試作から始まりました。販売額2億円達成の陰には、連綿と受け継がれてきた産地としての術があります。

